

学校と地域の協働実践セミナー 公開講演

「地域と学校はパートナー～これからの地域と学校のあり方～」

平成27年7月29日(水) 青森県総合社会教育センター 第1研修室 参加者37名

学校と地域の協働実践セミナー公開講演が、7月29日(水)青森県総合社会教育センターで開催されました。今年度は宮城教育大学教育復興支援センター 副センター長 特任教授 野澤 令照先生を講師に、「地域と学校はパートナー」と題して、地域と共に歩む学校づくり、地域コミュニケーションの中核に位置する学校のあり方、大震災で発揮された子どもたちの力等、これからの地域と学校のあり方についてご講演をいただきました。

「地域ぐるみの教育」を求める背景

○学校側の要望

- ・学校や教師が果たしうる役割の限界
- ・困難な局面への対応力の脆弱化
- ・保護者や地域との相互理解の不足

○地域からの要望

- ・教育効果のさらなる向上を図る
- ・「自分が地域の子どもたちの役に立ちたい。」と考える人々の増加

【野澤先生による講演】



「学校と地域の協働」成功の鍵

→ 学校と地域の融合にある

- 学校と地域が、互恵を築けるかどうかにかかっている
- 互いの立場を理解するための努力を惜しまないことが重要
- 様々な課題を乗り越えながら、学校と地域の絶対の信頼関係を築くこと

いい地域には、いい学校がある。そして、いい学校はいい地域をつくる。

いい地域、いい学校をつくるためには

楽しさ理論

- ・楽しいと感じること・・・それが原動力
- ・義務感を離れ、主体的に関わることの重要性
- ・遊び心を忘れずに
- ・「面白いことをやろう」が原動力に

火だね理論

- ・熱い思いをもつ人こそまちづくりの推進者

【講演会の様子】



情報交換会

午後の情報交換会では、アイスブレイクを行ったあと、4つのグループに分かれて自分たちの活動を紹介します。その後、以下の3点についてグループワークを行いました。

- ① 学校が地域の力を取り入れる（連携する）ことによるよい点は何か。
- ② 学校と地域がつながるための課題は何か。
- ③ 課題を解決するためにはどうすればよいか。



〈参加者のアンケートから〉

- ・地域の支援ボランティアのあり方を理解できた。
- ・主に小中学校の話になると想像して参加したが、学校は異なるものの、地域との関わり方という点では、とても参考になる点が多かった。
- ・先生本来の仕事を行ってもらうため、地域ボランティアはとても重要だと思いました。子どもたちのため、のちに自分たちのためになる、それが地域のためになる。学校と地域が繋がる大切さを知りました。

〈講師紹介〉



野澤 令照 氏（宮城教育大学教育復興支援センター 副センター長）

2007年 仙台市教育局学校教育部 参事

2009年 仙台市教育局 次長

2010年 仙台市立寺岡小学校 校長（2013年3月 退職）

2013年4月～ 現職

【主な公職及び活動】

- ・学校と地域の融合教育研究会 副会長
- ・優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰 審査委員
- ・学校と地域の新たな協働体制構築のための実証研究選定委員会委員長